

令和7年度 広島平和記念式典派遣事業 平和大使 活動報告書



～「平和祈念式典」に参加した際のリストバンド～



～海外の方から頂いた小さな折り鶴～
（「平和記念式典」会場にて）



～灯籠に込めた願い～



「非核平和都市宣言」 (平成18年12月25日)

美しい自然を愛し平和を願う心は人類共通のものです。

これを根底から揺るがし、地球環境と人類の平和を脅かす核兵器は絶対に容認できません。

世界でただ一つ悲惨な体験をした被爆国の国民として、核兵器の廃絶と非核三原則をいま一度世界に向け強く訴えていかなければなりません。

人と自然と産業が調和しながら進化するまちづくりをめざしている燕市は、新市誕生を機として、決意を新たに世界の恒久平和を願い、ここに「非核平和都市」を宣言します。

燕 市

目 次

I	広島平和記念式典派遣事業実施にあたって・・・・・・・・・・	1
II	ごあいさつ・・・・・・・・・・	2
III	令和7年度 広島平和記念式典派遣事業 日程・・・・・・・・・・	3
IV	研修レポート・・・・・・・・・・	4
	① 出発式 平和大使決意表明	
	② 平和大使レポート	
	燕中学校 簡 翠 愛	
	小池中学校 中村 優花	
	燕北中学校 斎藤 花楓	
	吉田中学校 老田 光来	
	分水中学校 平原 由依丸	
V	広島平和記念式典派遣事業の概要・・・・・・・・・・	22
VI	広島平和記念式典派遣事業の様子・・・・・・・・・・	24

広島平和記念式典派遣事業実施にあたって

燕市長 佐野 大輔

令和8年2月7日、ミラノ・コルティナ冬季五輪の開会式が行われました。選手団が入場した後にオリンピック旗の旗手として入場したのは、長年にわたり「核のない世界」の実現を訴え続け、核軍縮を軸とした平和活動に貢献された、前広島市長の秋葉忠利さんでした。世界中の平和への願いが現れていました。

しかし、今なお、戦争や地域紛争、あるいはテロ行為によって、多くの人々の尊い命が失われており、世界には約12,000の核兵器が保有されています。

広島・長崎の被爆の悲劇から、80年が経ちました。戦争を知らない世代も増え、悲惨な記憶を風化させることのないようにしなければなりません。私たちは、今日、享受することのできる平和と繁栄が、戦争による尊い犠牲の上に築かれているということを、世界でただ一つの被爆国の国民としてしっかりと理解し、後世に永遠に語り継いでいくことを大切にしなければなりません。

燕市は、核兵器のない真の世界恒久平和が実現することを願い、平成18年12月25日に「非核平和都市」を宣言しました。そして、平成20年度から広島平和記念式典へ燕市内中学校5校の代表生徒の派遣を始め、コロナ禍による派遣中止をはさみ、今回で16年目を迎えました。

生徒たちは平和大使として、各学校で制作した千羽鶴の奉納、広島平和記念資料館や原爆ドームなどの見学、被爆体験講話の聴講、同年代の児童生徒との平和へ向けたディスカッションなどを体験してきました。報告会では、生徒たちが直接目と耳で学び、肌で感じてきたこと、そして一人一人が考えた「平和を実現するために必要なこと」を市民の方々へ発表してくれました。

平和大使たちには、これからも、体験し、感じたことを学校、家庭、地域、そして世界へ向けて発信するとともに、平和の大切さ、命の尊さについて考える機会をさらに広げ、自らできることを考え、積極的に行動してほしいと思います。今後の平和大使の活躍に期待しています。

終わりに、今回の事業実施にあたり多くの方々からご協力を賜わりましたことに、心から御礼を申し上げます。

ごあいさつ

燕市教育委員会教育長 小林 靖直

燕市では、非核平和の推進と平和学習活動の一環として、平成20年度から毎年、市内5つの中学校の代表生徒を平和大使として広島へ派遣しています。平和大使は、広島平和記念式典へ出席するとともに、各中学校の生徒たちが、戦争の犠牲となられた方々の冥福をお祈りし、平和への願いを込めて作った千羽鶴を「原爆の子の像」に奉納してきました。

私たちは、広島原爆投下について、学校での学び、テレビ、新聞などでの報道から、亡くなられた方の数や当時の惨状などを知っています。しかし、実際に広島市を訪ね、広島平和記念式典に参列し、その日その場所を訪れないと感じることのできないもの、教科書や新聞などの文字や写真だけでは伝わらないことを、私たちに教えてくれます。

今回、平和大使として広島へ派遣された5名は、五感を働かせ、現地を訪ねたからこそ分かること、感じられることなどをたくさん吸収してきました。戦争や平和について考え、この平和を守っていくために、できることから行動し、未来をつくろうという思いが、この報告書を読んでいただければ伝わるものと思います。

終戦から80年が経ち、その歴史を私たちに伝えてくれる語り部の方も年々少なくなってきました。貴重な体験をしてきた平和大使の皆さんには、戦争や核兵器の使用という過ちを二度と繰り返さぬよう、学んだこと、感じたこと、そして平和の尊さを未来の世代にしっかりと伝えてほしいと願っています。

最後になりますが、広島平和記念式典派遣事業を開催するにあたり、平和大使の皆さんを快く送り出してくださった保護者の方々、ご支援、ご協力いただいた方々に感謝を申し上げ、ごあいさつといたします。

令和7年度 広島平和記念式典派遣事業 日程

事前研修 7月22日(火) 17:00 ~ 18:30

- ◇ 参加者・引率者自己紹介
- ◇ 広島平和記念式典派遣事業について
 - ・事業概要説明(目的・活動内容等)
 - ・当日までの準備



1日目 8月5日(火)

- ◇ 出発式(燕市役所) 6:50 ~ 7:10
- ◇ 移動(燕三条~広島) 8:08 ~ 14:27
- ◇ 原爆の子の像で千羽鶴を奉納 15:30 ~ 16:00
- ◇ 広島城 見学 16:00 ~ 17:30
- ◇ ホテルにてミーティング 19:00 ~ 19:10



2日目 8月6日(水)

- 式典会場に向けて出発 6:45 ~
- ◇ 広島平和記念式典参加 8:00 ~ 9:00
 - ・原爆死没者名簿奉納
 - ・献花、黙とう
 - ・平和宣言(広島市長)
 - ・平和への誓い(こども代表)
 - ・来賓あいさつ
 - ・ひろしま平和の歌(合唱)
- ◇ ボランティアガイドによる平和記念公園内見学 9:30 ~ 11:00
- ◇ 第1回 全国平和学習の集いに参加 13:00 ~ 16:30
- ◇ 灯籠流し受付 17:00 ~ 17:30
- ◇ 広島原爆死没者追悼平和祈念館見学 17:30 ~ 18:30
- ◇ 灯籠流し 20:00 ~ 20:45
- ◇ ホテルにてミーティング 21:00 ~ 21:10



3日目 8月7日(木)

- ◇ 広島平和記念資料館 8:00 ~ 10:30
- ◇ 移動(広島~燕三条) 12:18 ~ 18:29
- ◇ 解散(燕三条) 18:45



事後研修 8月18日(水) 17:30 ~ 19:30

- ◇ 報告会に向けた準備

研修レポート

① 出発式 平和大使決意表明

② 平和大使レポート

燕中学校 簡 翠 愛

小池中学校 中村 優花

燕北中学校 斎藤 花楓

吉田中学校 老田 光来

分水中学校 平原 由依丸

令和7年度 広島平和記念式典派遣事業 出発式 平和大使決意表明

■燕中学校：簡 翠愛

私は広島派遣事業を通して、様々な意見や視点に触れることで、これからの平和の在り方について考えたいです。私が知らない戦争を深く学び、恐ろしさと平和の尊さを多くの方に伝えます。私達が創っていく未来が平和であるために、何ができるのかを考えてきたいと思います。

■小池中学校：中村 優花

私達は戦争や原爆を経験したことがないからこそ、被害にあった人たちの話を聞いたり、資料で見たりすることが大事だと考えます。なので、この広島派遣で自分で見たもの、聞いたものを伝え、成長する機会にしたいと思います。

■燕北中学校：斎藤 花楓

原爆についての歴史は教科書やニュースで見たことがありますが、現地ではその背景などより多くのことを学んで来たいと思っています。また、他の生徒との交流を大切に、自分がこれから平和のために何ができるのかよく考えたいです。

■吉田中学校：老田 光来

私は今回の広島派遣事業を通して、平和の価値と戦争の恐ろしさについて学んできたいと思います。広島では今まで以上に平和と戦争と向き合い、多くの貴重な体験から学んだことや、平和を守っていくために私達ができることを地域の人にしっかり伝えられるように全力で頑張ってきます。行ってきます。

■分水中学校：平原 由依丸

学校での歴史の授業や、インターネットの情報だけでは学べないことを、現地広島で学びたいと思いました。実物を見たり、戦争を体験した方々の、授業では聞くことができないような話を聞いたりすることで、戦争の悲惨さを実感したいと思っています。感じたことを、学校の代表として、分水中の全校生徒に伝え、平和への思いをともにしたいと思っています。

1. 事前学習

(1)原子爆弾(原爆)の特徴

原爆の特徴は、大量の放射線が放出され、それが人体に影響を及ぼすことである。放射線は、人体の奥深くまで入り込むことによって、内臓を犯すなどの深刻な障害を引き起こす。放射線による障害は、障害物の有無や爆心地からの距離によって程度が異なる。爆心地から1km以内にいた人は致命的な影響を受け、ほとんどが数日以内に亡くなる。一方、外傷が全く無く、無傷と思われた人々も、月日が経ってから、死亡した例もある。

では、これほどの脅威をもった武器をなぜアメリカは世界で初めて日本に落としたのだろうか？

(2)アメリカの考え

アメリカは日本に原爆を落とすことで降伏させ、本土決戦を避けることで、犠牲者を減らそうと考えていたのである。もし本土決戦になっていたら、大勢の日本人によって100万人もの米兵が亡くなっていた。そして、現在のアメリカでも、原爆は日本を降伏に追い込むとともにたくさんの命を助けた兵器として神聖化されている。

このように、当時のアメリカ側は「自分たちは正しい判断をした」と考えていた。

(3)広島復興

広島は原爆により、建物や交通施設、上下水道などの都市インフラが徹底的に破壊された。広島市民は壊滅的な被害からの応急復旧に取り組み、復興計画を策定し、事業化に取り組んだ。

被爆2日後に広島駅と横川駅間の電車の運転を開始し、被爆3日後に一部路面電車区間の運転開始、被爆4日後には上水道の送水ポンプの稼働を開始した。復興がほとんど不可能だと思われるほど破壊された都市で、復興計画は当時として可能な限りの理想を追求した。それは、関係者と市民の並大抵ではない努力と、時には市民に大きな負担がかけられる難事業であった。同時に、諸外国からの支援などに支えられ、広島市民は被爆直後の数年間の危機を乗り越えようと奮闘した。

(4)事前学習で感じたこと

私は原爆の恐ろしさは絶対に忘れてはいけないことであるとともに、被爆後の広島市民の復興に向けての努力は日本の誇りだと確信した。そして、当時のアメリカの考えを知り、戦争にどっちが悪いということではなく、どこも自分の正義を貫こうとしていることがわかった。ただ、それは戦争をしてもいいという理由にはならない。次の世代である私達がこの悲劇について学び、語り継ぐことと、海外の方々にも伝えることは私たちの義務であると考えた。二度と日本に悲劇を起こさないために。

2. 学びの記録「広島平和記念資料館」

広島派遣三日目に広島平和記念資料館を訪れました。館内では、音声ガイドを聞きながら見学したため、写真や被爆当時の物だけではわからない当時の背景を知ることができました。

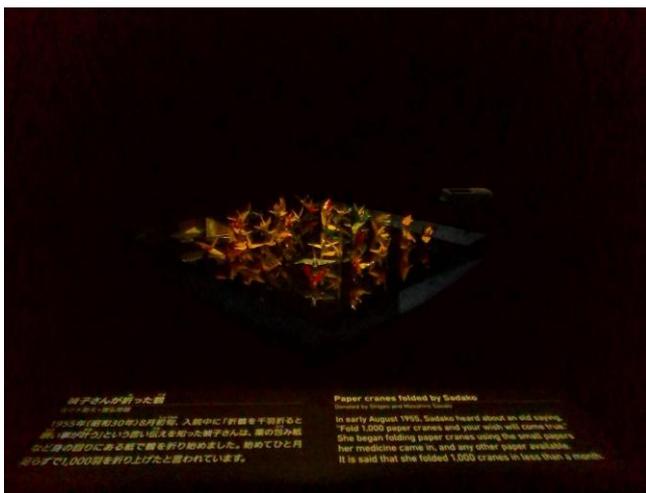
(1) 館内での様子

館内には被爆当時の写真や遺品、後遺症を患った被爆者の痛々しい写真や体験談。私は館内を進むにつれ、核兵器が作り出した絶望に胸が痛みました。



そして、館内で最も衝撃を受けたのが、血の染み付いた子供服と真っ黒になったお弁当箱です。輝かしい子供たちの未来が一瞬にして崩れ落ちたのを感じました。子供たちのお母さんに作ってもらったお弁当が潰れ、真っ黒になっているのを見ると、その瞬間まで続いていた幸せな家庭が想像できます。

原爆は家族を引き裂き、第二次世界大戦の戦争孤児は12万人にもなりました。その子供たちの中には十分な支援が得られず、露店の仕事をしたり物乞いをする子供もたくさんいました。



左の画像は、原爆の子の像の佐々木禎子さんが折った折り鶴です。佐々木さんは2歳の時に被爆し、十年後に白血病が発覚して亡くなりました。彼女は鶴を千羽折ると願いが叶うという言い伝えを信じて、亡くなる間際まで1300羽以上折ったと言われています。画像にある折り鶴はとても小さく、佐々木さんはピンセットで折りました。白血病の進行とともに、手が上手に動かせなくなったからとのこと。

(2) 感じたこと・考えたこと

広島平和記念資料館を訪れて、私の広島に対する印象は変わりました。今まで、「戦争は残酷だ」「戦争でこれだけの人が死んだ」「こんな目に遭った子供もいた」などと死没者が忘れられないために色んな展示や被爆講話があると思っていました。しかし、実際に訪れて感じたのは広島市の前向きな気持ちでした。平和記念資料館で、核兵器の非人道さを痛感し

ました。これから、私の感じたこと、平和の尊さを、声を大にして未来に繋いでいきたいです。

3. 学びの報告

皆さんは広島に対してどのようなイメージを持っていますか？私は今まで「憐れむべき存在」だと感じていました。ただ、そんな考えは今回の広島派遣で一変しました。私にとって広島は「尊敬すべき平和の先導者」になり、戦争の残酷さとともに平和のありがたさを肌で感じました。

私たちは「戦争」を知りません。私は被爆体験を実際に被爆者の方から聞き、戦慄しました。爆心地から 2.5km 離れた自宅にいた八幡照子さんにお話を伺いました。八幡さんのお話から、核兵器の非人道さと命の重みをひしひしと感じました。そして、「戦争により、人は変わる」という言葉が印象に残りました。八幡さんの周りの方々にも、夢や希望に向かっていた努力が一瞬にして失われ、やるせない思いに苦しみ続けていたとおっしゃっていました。最後に、八幡さんは私たちに「いがみ合って生きず、幸せに生きてほしい」と話しました。寄せては繰り返す波のようなかけがえのない日常は、原爆により亡くなった方々がどんなに生きてたかった未来なのだろうか。私は目頭が熱くなりました。これから、当たり前の毎日に意味を持って、全力で生きることと平和な未来を築いていくことが私たちの使命だと考えました。

今回の広島派遣事業を通して、貴重な体験をたくさんさせていただきました。被爆から 80 年という節目の年であることから、平和記念式典には過去最多となる 120 カ国が参列し、第一回平和学習の集いにも参加できました。この経験は大人になっても記憶に深く刻まれるものになりました。1945 年 8 月 6 日午前 8 時 15 分、広島は光に覆われ、一瞬にして希望が崩れ落ちました。その事実が色褪せることなく、二度と日本に戦争が起こることのないように、私は今回の経験を様々な人に伝えたいです。



1. 事前学習「核兵器禁止条約」

(1) 概要

核兵器禁止条約は核兵器の開発や保有、使用、またはそれらの威嚇を全面的に禁止する国際条約。この条約は核兵器を全体的に法的禁止とする初めての国際条約でもある。核兵器のみの禁止条約であり、原子力発電やX線検査装置などの兵器以外での使用は禁じていない。前文において、被爆者の苦痛に対する気遣いと共に、国際人道法と国際人権法の原則が核兵器廃絶に関して再確認された。特徴は核兵器または核爆発装置を所有、保有、管理をしている締約国が申告をしなければいけない点である。なお非締結国への法的拘束力はない。

条約自体は1996年4月に起草はされているが、2017年7月の国連総会で賛成多数にて採択された。2020年10月に、発行に必要な50か国の批准に達したため、2021年1月22日に発効した。

(2) 条約の現状と日本の立場

73の国と地域が締約、94の国と地域が批准、31のオブザーバー国で成り立っている。(オブザーバー国とは、条約の締約国ではないが、条約に関する会議に参加し、議論を傍聴したり、意見を述べたりすることができる立場の国や地域のこと)

日本は核保有国であるアメリカの同盟国であり、署名・批准をするとアメリカに核兵器を放棄しろと発言していることになり、矛盾が生じるため、署名・批准をしない上に、不参加を示している。だが、世界で唯一の戦争被爆国として、核兵器の非人道性を訴える活動をしている。その経験を活かし、核兵器廃絶の目標は共有していて、核軍縮・不拡散に向けた議論に核兵器保有国と非保有国との「橋渡し役」として貢献しようという姿勢である。

(3) 今後の課題と課題に対する対応

- ・核保有国や「核の傘」に依存する国々の不参加
 - ↳核兵器保有国や同盟国の参加を促すための外交努力が必要。
- ・条約の実効性を高めること
 - ↳条約の実効性を高めるための検証制度の確率の見通しを立てる。
- ・核軍縮を停滞
 - ↳核軍縮の加速を訴える。

～日本の課題～

唯一の戦争被爆国であるにもかかわらず、核兵器禁止条約に背を向けている。日本が条約に参加するためには、非核三原則や安全保障政策との整合性、地域的な課題への対応が必要。

(4) 自分の考え

調べていくにつれ、日本は唯一の戦争被爆国でありながら、核兵器の本格的な廃絶から目をそむけているように感じました。アメリカや「核の傘」に頼っているだけではだめだと思いました。他国に頼ること自体がしてはいけないことではありません。ですが、核兵器廃絶という目標があるのならば、オブザーバー国として参加することからでも何かしらの行動をしたほうがいいと思います。核兵器の恐ろしさ、残酷さを伝えることができるのは、現状は日本しかありません。そのため、唯一の戦争被爆国として、敗戦国として、核兵器廃絶がより早く実現するように動いていくことが大切だと考えています。

2. 学びの記録「平和学習の集い」

私達は8月6日に広島県 JA ビルで行われた第一回平和学習の集いに参加してきました。地元の中高生による原爆の被害説明、被爆者体験講話、その後はグループに分かれてディスカッションを行いました。

(1) 原爆被害の概要説明

原爆の投下はこれ以上戦争による被害者を出さないためのアメリカの最終手段でした。終戦の年の7月には新潟を含む17箇所が候補に挙がっていました。効果的に影響を与えられるかということで、7月25日には新潟、広島、長崎、小倉の4箇所に絞られました。8月2日に投下命令が出され、8月6日に広島に投下されました。当時広島市では大規模な建物疎開が行われていたため、被爆した方は35万人いました。ですが、1945年12月31日までに被爆したうちの14万人が亡くなりました。



(2) 原爆による被害

原爆による主な被害は3つあります。1つ目は熱線による被害です。上空600m付近で炸裂したにも関わらず、爆心地の地表温度は3000～4000℃だったといわれています。そのため、半径2km以内では火災が、半径3～4kmではやけどの被害が大きかったそうです。2つ目は爆風です。原爆の威力で爆風が吹き、建物の窓ガラスが割れて飛んだり、破壊されたりしました。3つ目は放射線です。特に残留放射線の被害が大きく、被爆したときは無事でも、体内に蓄積し、被爆から何十年もたったある日急に亡くなる人もいました。また、看護のために広島市内に入った人も、残留放射線の影響を受けました。

(3)核兵器の現状

今、世界では9か国で12,000弱の核兵器を所持しています。そのうち、3,900発ほどは今すぐに使える状態です。広島、長崎に落とされた以上の威力のものもあります。もし、原爆が落とされたら、たくさんの方が亡くなる、放射線の被害が大きくなるなどの大変な思いをする人が必ず出てきます。もうこんな思いを誰にもさせてはいけません。そのためにも核兵器の廃絶はしなくてはならないものなのです。

(4)グループディスカッション

「あなたの地元では、第二次世界大戦中にどのような被害を受けたか」「今、平和ではない状態とはどのようなことがあるか、また、それはどうしたら解決できると思うか」という2つのテーマに沿って話し合いました。1つ目のテーマでは、広島原爆の被害の他にも新潟や埼玉で空襲が起きていたり、栃木や島根では食糧難が続いていたりしたことを共有したうえで、広島、長崎以外にも被害が出ていたので広島、長崎以外にも注目して伝えていきたいという意見になりました。2つ目のテーマでは身近な状態のいじめに注目しました。いじめを解決するために、被害者が助けを求めやすい状況を作ったり、人の気持ちを考えて行動したり、自分の気持ちに正直になったりすることで、解決できるのではないかと意見がでました。発表では違う意見が参考になったり、同じことに注目していても、考え方が異なったりして、様々な視点から見ることができました。



3. 学びの報告

私はこの3日間で戦争のことを深く考えることができるようなとても貴重な経験をする事ができました。

(1)3日間を振り返って

平和記念公園内にある原爆ドームを実際に見て、左右対称な建物のはずなのに、右側が爆心地に近いため、損傷が激しいことを知り、想像していた被害の大きさをどんどん上回り、衝撃を受けました。平和記念式典での式辞や平和宣言、平和への誓いは平和について考えさせられるような言葉でした。爆死没者追悼平和祈念館や広島平和記念資料館の展示は悲惨で目をそらしたくなるような展示もありました。また、平和記念公園で外国の方も千羽鶴を奉納していて、平和への思いが集まる、大事な場所だと思いました。3日間を通して、「平和について考え、勉強するという事は、事実から目を逸らさないことが大切だ」と感じました。私は資料を見たり、体験を聞いたりしましたが、何度も「受け入れたくない」、「見たくない」と思ってしまうほどつらく、悲しくなったり、言葉を失ったりすることがありました。しか

し、そのようなことを全て知り、戦争を知らない自分たちの周りに伝えることをしなくてはいけないと思いました。

(2)これからできること

私は今回、経験をただけではなく、生かさなくてはならないと考えています。そのため、周りの人にどれだけ当時の人たちがつらく苦しかったか、どんな思いをしたかを伝えるということをしていきたいと思います。また、戦争を経験していないから、興味ないからという考えで戦争や原爆について知ろうとしなかったり、考えようしなかったりせず、自分の意見だけでそのことの知識を片付けることは絶対にしてはいけないことだと思います。調べてまとめたり、

現地に行ったりしてもいいですが、戦争についてのニュースを見たり、自分の地元の被害を調べてみたりするというような小さいことでもいいと考えています。本当に小さいことでも、自分から戦争や原爆について行動する、興味をもつということ自体が大事なことだと思います。なので、この経験をムダにすることがないようにしていきたいです。



NO MORE HIROSHIMA

1. 事前学習 「核兵器禁止条約」

(1)核兵器禁止条約

核兵器禁止条約は2017年7月7日に国連で採択され、2021年1月22日に発効された核兵器のない世界を目指すための条約で、主な内容は核兵器の開発、実験、生産、取得、保有、貯蔵、移譲、使用または使用の威嚇の禁止です。

(2)現状

現在94か国が条約に署名しており、73か国が批准していますが、核兵器を保有しているロシア、アメリカ、中国などの9か国や、核の傘(核兵器を持っている国が核兵器を持たない同盟国の安全を守ること)のもとにある国はこの条約には参加していません。

核兵器を保有する国が条約に参加しなければ意味がないのではないかと思うかもしれませんが、実際はそんなことなく、不参加国も含む世界中の銀行や企業が、核兵器の根絶に協力しています。条約では核兵器を製造、生産、保有する国への支援も禁止されているため、核兵器製造に関わる会社にお金を貸さない銀行や投資をやめる企業が増えています。これによって、核兵器の縮小につながることを期待されています。

(3)日本ができること

日本はアメリカによる核の傘のもとにあり、条約に参加できていません。ですが(2)のとおり日本の銀行、企業も核兵器の縮小に協力できます。また、日本は世界で唯一の被爆国です。広島・長崎での原爆の大きな被害や平和への訴えを世界に広めることで、核兵器をなくすことに貢献できるでしょう。

(4)自分の考え

核兵器を保有している国が条約に参加するのはまだ難しいかもしれません。日本も唯一の被爆国であるにも関わらず、安全のために核兵器に依存する状況が続いています。ですが、これから徐々に世界から核兵器を減らしていけば、核兵器に頼らず他の国とも対等なやりとりができるようになるはずだと思います。そのためには私たち1人1人が核兵器を無くす意味を考え、平和への強い思いを持つことが大切だと考えます。私はこの事前学習を通して、広島で何を学びたいのか改めて考えることができました。そして学んだことを周りの人に伝え、より多くの人に戦争や平和について考えてみてほしいと思います。

〈引用サイト〉

https://peace.jccu.coop/nuclear_TPNW/

日本生活協同組合連合会(核兵器禁止条約とは？日本生活協同組合連合会)

2.学びの記録 「平和学習の集い」

会場は全部で8会場に分けられ、私たちの会場には 240 人の小学6年生から高校生までの児童生徒が参加していました。今年この平和学習の集いに向けて活動を拡大した広島県内の中高生が参加するユース・ピース・ボランティアさんが進行をしてくださいました。

(1)被爆体験講話

8歳の時に被爆した八幡照子さんに被爆体験講話をしていただきました。八幡さんは太平洋戦争中から原爆投下直後の日本や広島街の状況を語りながら、「悲しかった」「今も忘れられない」そう何度もおっしゃっていました。ですが、「家族だけはいつもとても温かかった」ともおっしゃっていました。質疑応答の時間ではたくさんの生徒の質問に丁寧に答えてくださいました。どんな思いで証言をしているかという質問に対し、「子どもたちが核兵器の被害に絶対にさらされてはいけないという思い」と返答されていました。本当に辛く思い出したくない体験のはずなのに、私たちの未来のために証言をしてくださっていて感謝の気持ちでいっぱいになりました。

(2)グループディスカッション

最後にユース・ピース・ボランティアさんを含んだ他の都県の生徒と6人のグループになり、2つのテーマについて話し合いました。

1つ目のテーマは、自分の地元(もしくは興味のある地域)が第二次世界大戦中にどんな被害を受けたかでした。燕市では空襲による被害は少なかったものの金物産業が発達していたため武器などを作る軍事工場が造られていました。他の都県ではさいたま市は東京空襲の流れ弾による被害や、子どもも学校に行けずに働かされるなどの被害がありました。地域によって被害の種類に違いはありましたが、被害が全然ないという地域はなく、当時の全国民が苦しい生活を強いられていたことが分かりました。

2つ目のテーマは今、平和でない状態にはどのようなものがあるか、また核兵器をなくすために私たちにできることはなにかでした。平和でない状態にはロシアのウクライナ侵攻や中国での反日教育など国際的な問題や身近に起きている人種差別やいじめなどの意見が出ました。核兵器をなくすためにできることは、私のグループではたくさんの意見が出ましたが、最終的には「国際的な問題を武力に頼らずに解決できるようにする」と「身近ないじめや差別からなくしていく」の2つにまとまりました。



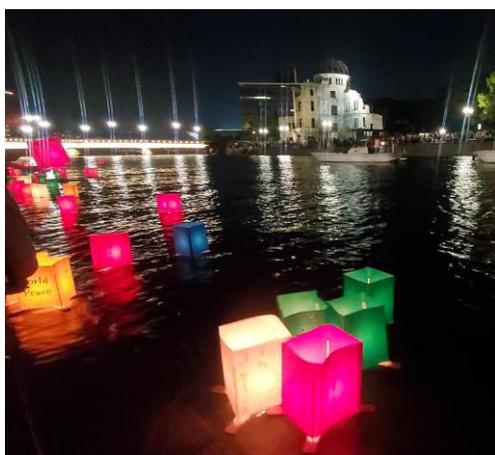
3. 学びの報告

(1) 平和学習の集いで感じたこと

平和学習の集いでは様々な地域の生徒と交流でき、自分だけでは思いつかなかったような新しい気付きもたくさんありました。私は今まで平和を作っていくのは大人の偉い人たちだと思っていましたが、それだけではなく、私たちのようなこれからの未来を担う子どもたちが戦争や平和について知り、出来ることを探して行動していくことが大切なのだと分かりました。

(2) 灯籠流し

灯籠流しには想像していたよりもたくさんの方が参加されていました。元安川に流れる灯籠のひとつひとつに平和や慰霊の思いが込められていてとても綺麗でした。ですがかつて原爆が投下された日には大怪我を負い、水を求めた数多くの人たちがこの川に入り亡くなったことを考えると、とても切ない思いになりました。



(3) 3日間を通して思ったこと

私は今まで原爆について広島でどんなことが起こったのか頭ではなんとなくわかっていましたが、実際に現地で平和記念公園を歩き、原爆ドームや資料館の遺品や資料を見て、本当にここに原爆が投下され、たくさんの人の命や普通の暮らしが失われてしまったのだと実感しました。

式典や資料館などで海外の方もよく見かけました。世界中の人が広島で起こったことに目を向け、平和な未来を願ってくださっていることが分かりました。こうして日本国内だけではなく世界中の人たちもいっしょに平和の大切さを考えることがとても重要だと思いました。戦争をはじめるのはその国の偉い立場にいる一部の人間だけですが、私たちの心の中にも、なにか不満や対立があったりするときには他の人を傷つけてしまおうとする気持ちが少なからずあるはずです。その気持ちをそのまま暴力という形に変えてぶつけようとせず、周りの人たちの気持ちを尊重した話し合いなど、誰も傷つかない方法で解決しようとするのを私たち1人1人ができれば、いずれはそれが世界中に広がり、争いのない平和な世界をつくる事が出来ると思いました。そしてまずはそれを私が実行し、少しずつ友達など周りにも伝えていきたいと思います。

1. 事前学習

(1) 核兵器禁止条約とは

2017年7月ニューヨークの国連本部で122カ国の賛成によって採択されました。この数は国連加盟国199カ国の3分の2近くになる数でした。

2021年1月22日に、批准国が50カ国を超え、新たな国際法となりました。また、核兵器を「非人道兵器」として、開発、保有、使用、脅しを含むあらゆる活動を禁止した条約です。

(2) 原爆の威力

500m圏内	民家の粉砕、建物の粉砕、生存者なし
1,000m 圏内	建物の粉砕、ガスタンクの大破、死傷者
1,500m圏内	竹ノ久保変電所に爆風が直撃、鉄骨は屈曲、死傷者
2,000m 圏内	木造家屋の倒壊、神社の粉砕、同境内において男児2人が焼死
2,000m以上の区域	建物が吹き飛ばされる、壁の崩落、軽い火傷を負った人

(すべて中心点からの区域)

原爆の威力は、熱線、爆風、放射線の3つがあり、人々に深刻な被害をもたらしました。

(3) 被害状況

広島に原爆が投下され、死亡した人の数は分かっているだけでも約14万人と推計され、原爆が爆発し出された熱線は、爆発から0.2秒～0.3秒で地上に強烈な影響を与えたとともに、地表面の温度は3,000～4,000度になったと言われています。また、爆風によって建物が崩壊したり、吹き飛ばされたり、倒れた建物の下敷きになって死んでしまった人や飛んできたガラス片が刺さって怪我をした人も多くいました。

原爆は大量の放射線を放出したため、人体にも大きな影響をもたらしました。直接被爆しなかった人でも放射線を受け、亡くなった人も出ました。

(4) 私が考えたこと

私は原爆のことを詳しく調べてみて、原爆の威力の甚大さとそれにとまらぬ被害の深刻さを改めて学びました。これほどの被害をもたらした核兵器は今もなお、世界の数カ国が保有しています。私は核兵器のない世界を目指すために、平和を守っていくために、今よりも核兵器について学び、世界の戦争状況について知ることが大切だと考えました。

<参考・引用サイト>

ながさきの平和 https://nagasakipeace.jp/search/nuclear_issues/terms/nwc.html(2025/7/31)

広島市公式ウェブサイト <https://www.city.hiroshima.lg.jp/>(2025/7/31)

co・op 日本生活協同組合連合会 https://peace.jccu.coop/nuclear_TPNW(2025/7/31)

2. 学びの記録「広島平和記念公園」

広島派遣の二日目、私達は広島平和記念公園を回りました。ガイドさんは公園内にある様々な建物を一つ一つ丁寧に説明してくださいました。そのおかげで、私達はこれまで知らなかった多くのことを学ぶことができました。

(1) 原爆ドーム

原爆ドームはもともと広島県立商品陳列所という建物で、1915年(大正4年)4月チェコの建設家ヤン・レツルにより、物産の展示・即売、美術展覧会場を目的として建てられました。爆心地から160m地点で被爆し、1996年(平成8年)12月に平和を求める誓い、核兵器の廃絶のシンボルとして世界遺産に登録されました。



(2) 原爆の子の像

公園内にある原爆の子の像は、「原爆症」を発症した佐々木禎子さんが亡くなったことがきっかけとなり完成した像です。禎子さんは折り鶴を千羽折れば、願いが叶うという話を聞いて、鶴を折り続けました。しかし、12歳で亡くなってしまいました。この悲しい話を聞いた禎子さんの同級生たちは禎子さんや原爆で亡くなったすべての子供の霊を慰めるため、像を建てようと考えました。その後、各地からの募金により原爆の子の像が建てられました。

(3) 原爆死没者慰霊碑

原爆死没者慰霊碑には原爆で亡くなってしまった多くの人の名簿がおさめられています。石棺には、「安らかに眠ってください 過ちは繰り返させぬから」と刻まれています。原爆死没者慰霊碑に献花をするために広島の方だけでなく、外国の方も列を作っていました。慰霊碑の奥には「平和の灯」があります。この火は1964年(昭和39年)8月1日から燃え続けており、世界から核兵器がなくなるまで燃やし続けようという思いが込められています。

<参照サイト>

広島市公式ウェブサイト

<https://www.city.hiroshima.lg.jp/atomicbomb-peace/1036664/1021115/1015065.html>(2025/8/14)

3. 学びの報告

私は、今まで日本では戦争が起こる可能性は少ないだろうと考えていました。また、今の生活が普通だと捉えていました。ですが、戦争について学習し、広島派遣を通して、戦争が思っているよりも身近な存在であること、日常生活が当たり前のことではないことを知ることができ、自分の成長に繋げることができました。

広島では原爆の被害を表現する多くの建物や遺品などを見ましたが、最初は信じられませんでした。真っ黒になった広島の間や皮膚がただれた人の絵を見たとき、あまりの非現実的な光景に理解しきれない気持ちがありました。これが原爆の悲劇なのだと、これが戦争なのだと受け止めるまでに何度も広島の間を見ました。たくさんの展示品を見て、やっぱり原爆は絶対に使ってはいけないものだし、持ってはいけないものだと改めて感じました。

被爆者の方のお話では、原爆が投下された8月6日の状況をより具体的に知ることができました。被爆体験証言者の八幡さんは「何より一番大切なのは命だ」とおっしゃっていました。原爆の犠牲者には、どんなに生きてくても生きられなかった人、やりたいことはたくさんあるのに自由に生き抜けなかった人が多くいたはずですよ。

私は、「今までよりも自分の命をもっと大切にしよう」「挑戦できるなら何でもやってみよう！」と自由に生きていけることにありがたさを感じました。

最後に、戦争は世界のどこかで今も起きています。拳で解決するのではなく、人を思いやる心、話し合いで解決することが大切です。私達には戦争を繰り返さないために、平和を守り抜く使命があります。

私はこの3日間の学びを家族に伝え、地域の方々に伝え、学校の生徒に伝えます。私達の話聞いた人が1人でも誰かに伝えれば、戦争を繰り返すことのない、核兵器のない世界がいつかやって来るはずですよ。被爆者のいない世界が来てしまっても、語り継ぎ、話し合いながら、これからも平和を守っていきましょう！



1. 事前学習

(1)なぜ日本とアメリカは戦争状態に？

日本(大日本帝国)は、まず前提として石油・ゴム・鉄などの資源を輸入に頼っていました。日中戦争の長期化によりアメリカは日本に対して経済制裁を強化し、1941 年アメリカ・イギリス・中国・オランダによる「ABCD 包囲網」によって石油の輸出が停止されました。その後、日本は「自存自衛」の名のもとに戦争を決意しました。

日本は「大東亜共栄圏」を掲げアメリカはこれを「門戸開放原則」への挑戦とみなし対立が激化していきました。そうして 1941 年 12 月 8 日、日本がハワイの真珠湾を攻撃しアメリカが正式に第二次世界大戦への参戦をし、太平洋戦争が始まりました。

(2)なぜ原子爆弾が投下されなくてはいけなかったのか

戦争が激化する中、1945 年 3 月東京大空襲が起こります。

私はその時のアメリカはまだ軍事的・経済的にも余力を残してあった状態であると考えます。むしろその時のアメリカは戦争に向けて総力戦体制がピークに達していた時期とも捉えられます。東京大空襲では 300 機以上の爆撃機が使用されました。ではなぜアメリカはそこまでの戦力を投下したのでしょうか。それは戦争の早期終結です。これだけを聞くとアメリカは間違っていないと考えてしまいますが、アメリカの本当の狙いはそこではなく、真の狙いは戦後の世界の主権だったと考えられますアメリカの本当の敵はソ連であり、ソ連が参戦してくる前に戦争を早期終結させ、主権をアメリカに手繰り寄せようとしていたのです。そこに使われたのが「原子爆弾」です。アメリカとソ連の主権争いのために何十万人という尊い命が奪われてしまったとも考えられます。さらに言えば広島にはウラン型、長崎にはプルトニウム型が投下され、異なるタイプの原子爆弾の効果と比較するという人体実験を行ったのではないかという説もあります。あなたはこれを耳にして何を思いましたか？

(3)原子爆弾について

原子爆弾はたった一発で何十万人を殺してしまう恐ろしい兵器です。

今世界には広島で落とされた原爆とは比べ物にはならないようなものが一万発以上備えられています。私はこの現状を知って、「平和」の実現の難しさを改めて感じるのと同時に必ず実現しなければならないことだとも考えました。

(4)自分の考え

今世界はウクライナ戦争をはじめたくさんの戦争・紛争が起こり続けています。この現状を変えるためには核廃絶を訴えること平和への思いを叫び続けることももちろん大事です。ですが、なぜ核を廃絶しなければならないのか、なぜ平和は大事なのか、それが分からない人は残念ながら少なからずいます。そこで、私は歴史をより深く学んでほしいと考えます。第二次世界大戦がどんなものだったのか、広島と長崎はなぜあんなに悲惨な状況にならなければいけなかったのか。答えは過去の歴史がすべて教えてくれます。戦争がほんとうの意味で人を幸せにしたことはありません。でも歴史は繰り返されています。ですが

そこを世界中の人々全員で食い止めてこそ真の平和がつくられるのではないのでしょうか。私達ならそれができます。Can change the world

2. 学びの記録「広島平和記念式典」

2日目の朝、私達は「広島原爆死没者慰霊式並びに平和記念式典(広島平和祈念式典)」に参列しました。今年は終戦80年という節目の年ということもあり過去最多 124 の団体が参加しました。

(1)印象に残ったこと

私は、こども代表の「平和への誓い」が特に印象に残りました。広島市内の小学校に通う6年生の2人が広島や長崎に落とされた原子爆弾の恐ろしさを伝えてくれました。「80年前のあの日、広島市の町並みと人々の幸せがたった1発の原子爆弾で奪われてしまった」という言葉には、もうあんな悲劇は繰り返してはいけないという思いが込められているのではないかと考えました。



(2)参列し考えたこと

私は終戦80年という節目の年に式典へ参加できたことは、これからの人生において大きな意義を持つ体験になったと感じました。なぜなら、戦争や原爆投下に対する考え方や感じ方が異なる多くの国や地域の人々が、一つの会場に集い、亡くなられた方々の霊に心を寄せ、静かに思いを巡らせる——そのような機会は決して多くはないからです。また、式典に参加すること自体が「平和への思いを共有すること」でもあると強く実感しました。これからの時代、私たちが戦争を繰り返さないためには「話し合うこと」がますます重要になっていくと思います。その際に必要なのは、過去をいつまでも憎しみ合うことではなく、「未来をともに創っていくパートナー」として互いを理解し、認め合う姿勢だと思います。それこそが、被爆者の方々が少なくなっていくこれからの世界で、私たちに求められていることではないでしょうか。



3. 学びの報告

私はこの3日間を通して、本当に貴重な体験をさせていただいたと感じています。私は以前から原爆や戦争といった歴史への関心が高く、いつか広島を訪れてみたいと思っていました。今回実際に広島を訪れ、ガイドさんの話を聞いたり、資料館を見学したりすることで、平和について考えることの大切さをより一層強く実感しました。

以前、テレビ番組で第二次世界大戦に関する戦勝国・敗戦国の世論調査を見たことがあります。調査内容は「原子爆弾の投下は必要だったと思うか」「日本に対してどのような感情を持っているか」といったものでした。私はその結果に大きな衝撃を受けました。日本では原子爆弾の投下を肯定的に語ることはあまり良いとされませんが、アメリカでは「あれは必要だった」「むしろ多くの命を救った」という意見も少なくないのです。一方で、もちろん「原爆投下は正当化できない」と考える人もいます。私はその違いを通して、同じ出来事であっても国や歴史が異なれば考え方や感じ方も大きく変わると知りました。そしてそこに、平和を実現することの難しさを感じました。互いを理解し合うことは簡単ではなく、ときには憎しみや恨みが生まれ、人を傷つけてしまうこともあるからです。

しかし、広島で学んだことがあります。それは「憎しみや恨みは誰も幸せにしない」ということ、そしてその感情が再び広島や長崎のような悲劇を引き起こしてしまうということです。広島平和記念公園内の慰霊碑には「安らかに眠ってください。過ちは繰り返させぬから。」と刻まれています。この言葉のとおり、あの悲劇を繰り返さないために、私たち一人ひとりが「自分に何ができるのか」を考え続けることが大切だと思います。

最後に、私は平和を実現するために何よりも大切なのは「話し合いを続けること」だと考えます。日本は世界で唯一の核被爆国です。落とされた国とそうでない国とでは、原子爆弾に対する考え方が違うのは当然でしょう。そのうえ言語や文化、宗教などの壁もあり、話し合いは決して容易ではありません。ですが、互いを「平和を目指すパートナー」として歩み寄り、理解し合い、認め合うことができれば、世界は今よりもっと幸せな「ピースサイン」であふれるはずですよ。



広島平和記念式典派遣事業の概要

広島平和記念式典派遣事業の概要は次のとおり。目的を理解し、有意義な学習活動となるよう留意する。

(1) 目的

非核平和宣言都市推進事業および平和学習活動実施の一環として、広島平和記念式典をはじめとするさまざまな催しに、次代を担う中学生を派遣することにより、国際的な視点で命の尊厳や平和の尊さについて理解できる生徒を育成すること。

(2) 主な活動内容

- ①広島市原爆死没者慰霊式並びに平和記念式典への参列
- ②平和学習の集いに参加
- ③原爆の子の像に各校で制作した千羽鶴を奉納
- ④広島平和記念資料館、原爆ドーム、原爆死没者慰霊碑等の見学
- ⑤灯籠流しへの参加
- ⑥市長および市民への報告（市内会場で報告会を実施）
- ⑦全校生徒への報告（各学校で報告会等を実施）
- ⑧報告書の提出

広島派遣時

派遣後

1. 学習の過程および分担

より有意義な体験にし、各学校の全校生徒へより効果的に伝えるため、「事前の学習」、「学びの記録」、「学びの報告」という3ステップで学習活動を進める。

(1) 事前の学習

事前に以下のことについて学習し、より充実した体験とする。

- ① 日程および資料の確認 (全 員)
- ② 被爆体験者への質問 (全 員)
- ③ 核兵器禁止条約について (選 択)
- ④ 「平和学習の集い」グループディスカッションテーマについて (選 択)

【テーマ1】

あなたの地元では、第二次世界大戦中にどのような被害を受けたか。

※広島・長崎等、関心のある地域について調べてもよい。

【テーマ2】

今、平和でない状態とはどのようなことがあるか。

それはどうしたら 解決できると思うか。

(2) 学びの記録

以下の項目について担当がそれぞれレポートとしてまとめる。

- | | | |
|--------|-------------------------------------|--------------|
| 広島での学び | ① 広島平和記念公園 | (担当： 老田 光来) |
| | ② 広島平和記念資料館 | (担当： 簡 翠 愛) |
| | ③ 平和学習の集い | (担当： 中村 優花) |
| | ④ 広島平和記念式典
(広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式) | (担当： 平原由依丸) |

(3) 学びの報告 (まとめ)

参加前の学習や実際に3日間の研修に参加して得たものや感じたこと、また、これらの経験を受けて、全校生徒や周りの人に伝えたいことをまとめる。

2. 広島平和記念式典派遣事業報告会

日 時：令和7年9月7日(日) 午前10時から11時

場 所：燕市役所 つばめホール

～ 令和7年度 広島平和記念式典派遣事業の様子～



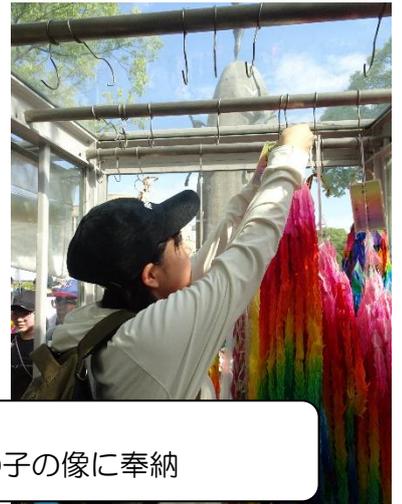
出発式 (8/5)

一人ひとりの決意表明と、市長からの
激励の言葉



千羽鶴の奉納 (8/5)

みんなの願いを原爆の子の像に奉納



**広島市原爆死没者慰霊式並びに
平和記念式典に参列 (8/6)**



**現地のボランティア
ガイドによる平和記念公園
の見学 (8/6)**

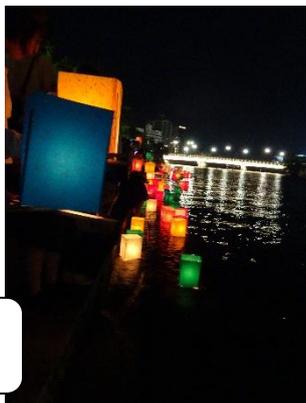


**第1回全国平和学習の集い
(8/6)**

八幡照子さんの被爆体験講話
全国小中学生とのグループディ
スカッション



灯籠流しに参加 (8/6)
恒久平和に願いを込めて



広島平和記念資料館を見学 (8/7)
当時の写真や被爆された方の体験談



被爆アオギリ二世

被爆アオギリ二世の親木のアオギリは、爆心地から北東 1.3 kmにある中国郵政局の中庭で被爆しました。爆心地側の幹半分が熱線と爆風により焼けてえぐられましたが、焦土の中で青々と芽を吹き返し、被爆者に生きる希望を与えました。その後、このアオギリは 1973(昭和 48)年に平和記念公園内に移植され、今でも樹皮が傷跡を包むようにして成長を続けています。

被爆アオギリ二世は、このアオギリの種から育てられたもので、「平和を愛する心」、「命あるものを大切にする心」を育み、平和の尊さを伝えるとともに、過ちを再び繰り返さないよう、被爆の実相を後世に伝えます。

燕 市 平成 30 年 4 月 植樹



令和 7 年度 広島平和記念式典派遣事業
平和大使 活動報告書

派遣期間：令和 7 年 8 月 5 日（火）～7 日（木）

燕市教育委員会学校教育課